

広島県・東京都を訪問して

網走市立第三中学校 三年
小林 はな（こばやし はな）



私は、8月5日から8日までの4日間、網走市の青少年平和都市友好交流事業で、広島県と東京都を訪問しました。

1日目は、原爆ドームと平和記念公園の見学でした。原爆ドームを実際に見ると、「本当にここに原子爆弾が落とされたのか」という実感が生まれました。

2日目は、「ひろしま子ども平和の集い」の参加でした。「ひろしま子ども平和の集い」では、被爆体験講話や、被爆者の方々の詩の朗読、中学生や高校生が行っている平和の取り組み発表がありました。特に、被爆体験講話では、実際に被爆された梶本さんという方が原爆を落とされたときについて詳しく説明をして下さいました。聞いていると心が苦しくなるものばかりで、今の時代では到底ありえないことばかりでした。その中でも、自分の足がボロボロになっているのに、一日中、たくさんの遺体を踏みながら大怪我をしている友達を安全なところまで運ぶという話が印象的でした。私はすりむいた程度の小さな怪我でも痛いと感じるのに、足全体から血が出ているとどれだけ痛いのか、想像するだけでも辛いです。そしてその足で友達を運び続けるなんて絶対に自分にはできないことだと思いました。さらに、梶本さんは、平和記念公園にたくさんある水は、焼けて亡くなり、水が飲めなかった人への供養だとおっしゃっていて、すごく衝撃的でした。体が焼かれている人は、急に水を飲むと安心して緊張が解け、亡くなってしまうので、この水は水をもらえず亡くなった人達へのお水だそうです。梶本さんは最後に、「忘れられた歴史は繰り返す」とおっしゃっており、この原子爆弾の恐ろしさを後世に伝えていかなければならないと思いました。

3日目は、東京ディズニーランドへ行きました。短い時間でしたが、東海林さんが計画を立ててくれて、様々なアトラクションを効率よく周ることができました。

4日目は、東京都慰霊堂や、平和祈念展示資料館へ行きました。慰霊堂では、東京大空襲をはじめとする戦時中のことや、関東大震災のことについての資料などを見ることができました。平和祈念展示資料館では、戦時中のことや、戦争が終わってからのことを、兵士の視点や抑留者の視点、海外からの引揚者についての資料がありました。戦時中のことは知っていても、戦争後の戦後強制抑留については知らないことが多かったので、戦争のことについてもっと詳しく学ぶことができました。その中でも、シベリアの強制抑留者は、極寒のなかで作業をしたり、食べ物がないのでコートの袖と食べ物を交換し、袖のないコートになった人もいたそうで、この生活がどれだけ大変かを実感しました。

この4日間、戦争や原子爆弾について学び、今ある平和について深く考えられる時間になりました。今家族がいて、友達もいて、学校に行って楽しく過ごせている、当たり前だと思っていたけど、ちゃんと感謝しようと思いました。被爆者の梶本さんは、「一人一人の積み重ねが平和になる」とおっしゃっており、私もその中の一人として、昔あった原子爆弾のこと、戦争のことを自分の周りの人に伝えていこうと思いました。

私にとって、この四日間は本当に貴重な体験になりました。本当にありがとうございました。